

CITIZEN®

取扱説明書

このたびは、シチズンウォッチをお買い上げいただきましてありがとうございます。

ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。

なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要の際にご覧ください。

シチズンのホームページ(<https://citizen.jp/>)でも操作方法がご覧いただけます。また、モデルによっては、外装機能(計算尺、タキメーターなど)が搭載されている場合があります。取扱説明書に記載されていない外装機能の操作も、同様にご覧いただけます。

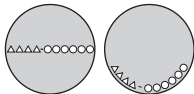
### 機種番号の見かた

時計の裏ぶたに、アルファベットを含む4ケタと6ケタ以上からなる番号が刻印されています。(右図)

この番号を「側番号」と言います。

側番号の先頭の4ケタが機種番号になります。右の例では「△△△△」が機種番号です。

### 刻印の位置の例






時計によって表示位置は異なります。



## 安全にお使いいただくために—必ずお読みください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。絵表示の意味をよく理解してから、**50～59**ページを必ずお読みください。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 <b>危険</b>	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が高い」内容です。
 <b>警告</b>	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 <b>注意</b>	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は、絵表示の一例です。)

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。

## ご使用になる前に

### ■ バンド調整について

お客様ご自身で時計のバンド（金属やゴム）の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする恐れがあります。（製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く）

バンドの調整は、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

### ■ 保護シールについて





時計のガラスや金属部分（裏ふた、バンド、中留め）にシールが貼られているときは、ご使用の前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

## ■ 特殊な構造のりゅうずやボタンの使いかた

モデルによっては、誤操作を防ぐため、次のような構造のりゅうずやボタンの場合があります。

### ねじロックりゅうず・ねじロックボタン

時計を操作するときは、ロックを解除してください。

	ロックを解除する	再びロックする
ねじロック りゅうず	 <p>りゅうずが飛び出す まで、左に回す</p>	 <p>りゅうずを押し込みな がら右に回し、しっかり 締める</p>
ねじロック ボタン	 <p>ねじを左に回し、止ま るまでゆるめる</p>	 <p>ねじを右に回し、しっか り締める</p>

# 目次

ダイビングへのご使用に当たって ...	6	この時計の警告機能について .....	40
各部の名称と役割 .....	12	このような場合には.....	42
モード切り替え .....	16	オールリセット .....	45
デジタル時刻の合わせ方 .....	20	電池について .....	46
アナログ時刻の合わせ方 .....	22	その他の機能 .....	48
アラームの使い方 .....	23	防水性能について .....	50
クロノグラフの使い方.....	25	お取り扱いにあたって.....	52
ログモードの使い方 .....	28	保証とアフターサービスに ついて .....	60
深度アラーム/潜水時間アラームの 使い方 .....	32	製品仕様 .....	62
潜水モードの使い方.....	35	お問い合わせ窓口 .....	64

# ダイビングへのご使用に当たって

## ⚠ 注意 ダイビングへのご使用に当たって

- ダイビングウォッチのご使用にあたっては、必ず各種のダイビングに関する教育やトレーニングを受け、それにしがったルールを守ってご使用ください。
- 時計の取り扱いと注意事項を十分に理解して、正しくご使用ください。万一この取扱説明書に記載していない取り扱いをした場合には、時計が正しく機能しない場合がありますのでご注意ください。
- 文字板や裏ぶたに表示された水深表示をご確認いただき、それ以上の深さでは使用しないでください。

## ⚠ 警告 水深計測機能について

- この時計の水深計測機能は公的機関の計測機器として認可されたものではありません。補助的な計器としてご使用ください。
- この時計の水深計測値はあくまでも目安としてご使用ください。

## ⚠ 注意 安全なダイビングをするために

- ダイビングの際には必ずバディ・システムをお守りください。
- 安全のために水深15~20 m位までの「スポーツダイビング」をおすすめします。
- 早めの電池交換をおすすめします。この時計の電池寿命は、新しい電池を組み込み後約2年です。(水深計測機能などの使用頻度により大きく異なります)
- 安全のためのルールにしたがって、ダイビング後は十分な休息をおとりください。ダイビング後、正しく休息時間をとらずに飛行機に搭乗したり高所に移動すると減圧症を起こす危険があります。

## ⊙ 禁止 ダイビングでの使用禁止事項

次のようなときは、ダイビングにこの時計を使用しないでください。

- 電池寿命予告機能が作動したとき。  
…電池寿命が近づくと秒針が2秒間隔で動きます。
- 時計が止まったり、異常が生じたとき。(ダイビングの機材や岩など、固いものにぶついたりしないように注意してください。)
- 保証温度範囲外での水深計測。  
…この時計の水深計測精度を保証する温度範囲は+10℃～+40℃です。
- 危険を伴う行動や状況の判断に。  
…この時計は水難事故などの予防や応急用の機器として造られていません。
- ヘリウムガス雰囲気中(飽和潜水など)での使用。  
…故障や破損などの原因になります。

## ⚠ 注意 ダイビングにおける注意

<ダイビングの前には>

- りゅうずがきちんと押し込まれ、りゅうずがしっかりねじロックされているか確認してください。
  - バンドが時計本体にしっかり固定されているか確認してください。
  - バンドやガラスにヒビ、傷、カケなどの異常がないか確認してください。
  - 回転ベゼルが正常に回転するか確認してください。
  - 時刻、カレンダーが正しくセットされているか確認してください。
  - 深度アラーム、潜水時間アラームが正しくセットしてあるか確認してください。
  - 秒針が正しく動いているか確認してください。
- \* 秒針が2秒間隔で動いていると電池寿命切れが間近です。お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

#### <ダイビング中は>

- 急速な浮上は避けてください。潜水病など、人体に影響を及ぼします。安全な浮上速度を守ってください。毎分9 m以内の安全な浮上速度をお守りください。  
なお、この浮上速度は、米国海軍ダイビングマニュアル(1993年度版)にもとづいています。
- 水中では、**A**ボタン以外のプッシュボタンやりゅうず操作は絶対にしないでください。防水不良などの故障の原因になります。
- 水中では、呼吸音でアラームが聞こえづらいことがありますのでご注意ください。

#### <ダイビングの後には>

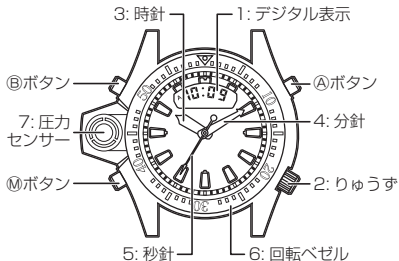
- 時計に付着した海水や泥、砂などはりゅうずがねじロックされていることを確認の上、真水で良く洗い落とし、次に乾いた布などで水分を拭き取ってください。
- センサー部につまったゴミ、汚れなどを取り除こうとして、センサーカバーを外したり、先のとがったものでつついたりしないでください。ゴミなどが入った場合は、真水で洗い流してください。洗い流せない場合は、お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

## ⚠ 注意 高所及び淡水における潜水について

- 高所及び淡水におけるダイビングは、特別の安全教育を受けた後でご使用ください。
- 海拔4000 mを超える所では正しい水深計測ができませんので使用しないでください。
- この時計は、海水基準(比重1.025)で換算した水深を表示しますので、淡水では表示している水深よりも実際は2.5%深いことになります。  
例) 20 m(表示している水深)×1.025=20.5 m(実際的水深)

圧力センサーはダイビング系モードに切り替えたときの周囲圧を水深0 mとして設定しますので、高所の湖においてもダイビング系モードへの切り替え時点の標高を0 mとしています。但し、4000 mを越える高所では正しい計測ができませんので使用しないでください。

## 各部の名称と役割



名称	
Ⓐ: Ⓐボタン	1回押すと
	2秒以上押す
Ⓑ: Ⓑボタン	1回押すと
	2秒以上押す
Ⓜ: Ⓜボタン	1回押すと
	2秒以上押す
1: デジタル表示	
2: りゅうず	
3: 時針	
4: 分針	
5: 秒針	

6: 回転ベゼル… この回転リングを使いダイビング時の経過時間や残り時間の目安を測定することができます。

12 お買い上げいただいた時計と取扱説明書のイラストは、異なる場合があります。

時刻系モード		
時刻・カレンダー	アラーム	クロノグラフ
時、分/秒/日、曜切り替え	ON/OFF	スタート/ストップ
—	—	—
—	—	スプリットタイム表示/リセット
時刻・カレンダー修正状態へ移行	アラームセット時刻修正状態へ移行	—
アラームモードへ移行	クロノグラフモードへ移行	時刻・カレンダーモードへ移行
ダイビング系モードへ移行	ダイビング系モードへ移行	ダイビング系モードへ移行
A/P、時、分/秒/日、曜	A/P、時、分又はOFF	分、秒、1/100秒
アナログ時刻合わせに使用		
常に「時」を表示		
常に「分」を表示		
常に「秒」を表示		

7: 圧力センサー… 水圧を感知し、深度を計測するためのセンサー。

名称		ダイビング系モード
		ログモード
Ⓐ: Ⓐボタン	1回押すと	メモ(内容)呼び出し
	2秒以上押す	—
Ⓑ: Ⓑボタン	1回押すと	潜水モードへ
	2秒以上押す	—
Ⓜ: Ⓜボタン	1回押すと	次のログNoを表示*1
	2秒以上押す	時刻系モードへ
1: デジタル表示		*2
2: りゅうず		アナログ時刻合わせに使用
3: 時針		常に「時」を表示
4: 分針		常に「分」を表示
5: 秒針		常に「秒」を表示

\*1 ログNo.4表示のときは深度アラームモードへ移行

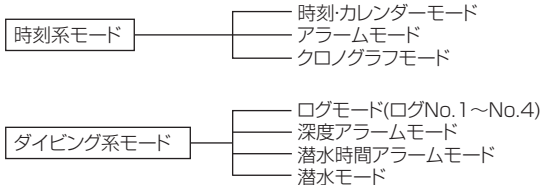
\*2 ログNo./潜水月日/潜水開始時刻/最大深度/潜水時間

ダイビング系モード		
深度アラームモード	潜水時間アラームモード	潜水モード
深度アラーム修正	潜水時間アラーム修正	潜水時間/最大深度呼び出し
深度アラーム早修正	潜水時間アラーム早修正	—
潜水モードへ	潜水モードへ	—
—	—	ログモードへ移行* <sup>3</sup>
潜水時間アラームモードへ	ログモードへ	—
時刻系モードへ	時刻系モードへ	時刻系モードへ* <sup>3</sup>
セット深度	セット潜水時間(分)	現在深度/潜水時間/最大深度
アナログ時刻合わせに使用		
常に「時」を表示		
常に「分」を表示		
常に「秒」を表示		

\*<sup>3</sup> 潜水中(1 m以深表示中)はプッシュボタンを押してもモード切り替えできません。

# モード切り替え

この時計のデジタル表示機能には、大別して時刻系モードとダイビング系モードの2種類があります。



☆ 各説明のイラストに使われているボタンマークは次の意味をもっています。

○: ボタンを2秒以上押す

○: ボタンを1回押す

## 1. 時刻系モード↔ダイビング系モードの切り替え

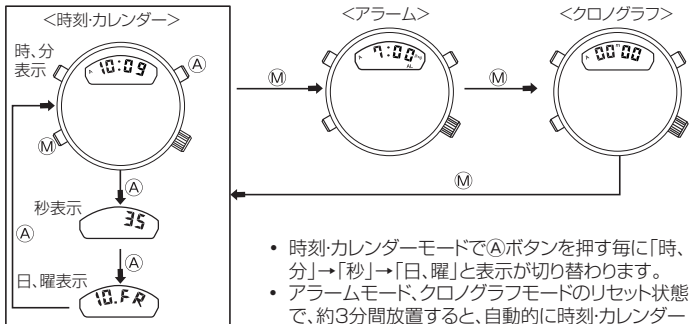
各モード(ダイビング系モードの潜水モードを除く)でⓂボタンを2秒以上押し続けると、確認音が鳴り、時刻系モードとダイビング系モードが切り替わります。



- 潜水モードの水深計測表示が0表示(1 m未満)の場合は、深度計測を終了し、時刻系モード表示に切り替わります。
- 潜水モードの水深計測表示が1.0 m以上を表示している場合は、ボタン操作をしても、モード切り替えはできません。
- 電池寿命予告機能が作動している場合、または圧力センサーに異常がある場合(ER表示)は、正常な水深計測ができないため、ボタン操作をしても、ダイビング系モードの潜水モードに切り替わりません。

## 2. 時刻系モードの切り替え

Ⓜボタンを押す毎に、モードが切り替わります。

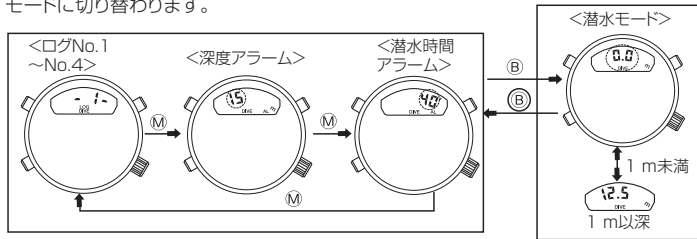


- 時刻・カレンダーモードでⒶボタンを押す毎に「時、分」→「秒」→「日、曜」と表示が切り替わります。
- アラームモード、クロノグラフモードのリセット状態で、約3分間放置すると、自動的に時刻・カレンダーモードに戻ります。(オートリターン)

### 3. ダイビング系モードの切り替え

Ⓜボタンを押す毎にログNo.1→ログNo.2→ログNo.3→ログNo.4→深度アラーム→潜水時間アラームとモードが切り替わります。

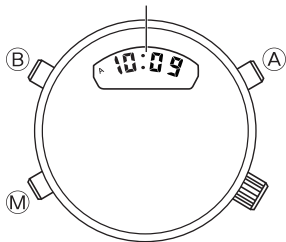
ログモード、深度アラームモード、潜水時間アラームモードでⒷボタンを押すと、潜水モードに切り替わります。



- ログモード、深度アラームモード、潜水時間アラームモードで約1時間放置すると自動的に時刻系モードに戻ります。
- 潜水モードの0表示(1 m未満)で約1時間放置すると、自動的にログモードに戻ります。

# デジタル時刻の合わせ方

「時、分」又は「秒」又は「日、曜」



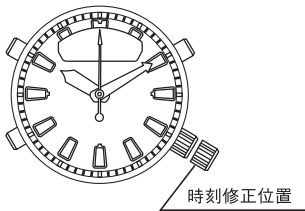
## 【デジタル時計の合わせ方】

- (1) Mボタンを押して時刻・カレンダーモードにします。
- (2) Bボタンを2秒以上押し続けると、「秒」が点滅し、時刻・カレンダーの修正状態になります。
- (3) Aボタンを押すと、0秒に戻り再スタートします。
  - 秒が30～59秒の時は、「分」が1分桁上げされます。

- (4) Ⓑボタンを押す毎に「秒→分→時→12H/24H制→月→日→年」と点滅箇所が変わりますので、修正したい箇所を点滅させます。
- (5) Ⓐボタンを押して点滅箇所を修正します。
- Ⓐボタンを押し続けると早修正できます。
  - 12H/24H制表示はⒶボタンを押す毎に交互表示されます。
- (6) Ⓜボタンを押してセット完了です。

- 年は1996年～2099年の間でセットできます。
- 12H制表示の場合は、午前(A)/午後(P)に注意してください。
- 各表示が点滅している状態(修正状態)で3分間放置すると自動的に修正状態が解除され、通常の時刻・カレンダー表示状態に戻ります。
- 各表示が点滅している状態(修正状態)でⓂボタンを押すと、通常の時刻・カレンダー表示状態に戻ります。
- カレンダーは、月末から翌月の1日に自動的に切り替わるオートカレンダーです。

# アナログ時刻の合わせ方



## 【アナログ時刻合わせ】

- (1) りゅうずのネジをゆるめて、秒針が「0秒」位置で止るようにりゅうずを引き出します。
- (2) りゅうずをまわして時刻を合わせます。
- (3) デジタル時刻の秒が「0」になったとき、りゅうずを押し込んで針をスタートさせます。
- (4) 針合わせ後、必ずりゅうずのネジロックをしてください。

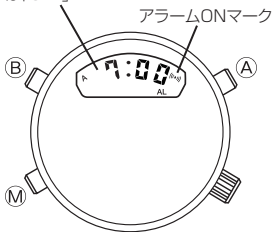
## 【ネジロックりゅうずについて】

- りゅうず操作をする場合は、りゅうずのネジをゆるめてから行ってください。
- 操作後は常に通常位置に戻して、必ずネジロックをしてご使用ください。
- りゅうずを引き出した状態では、ボタン操作は行わないでください。
- 水滴などが時計に付着しているときや、水中でのりゅうずの操作は行わないでください。時計内部に水が入り、防水不良などの原因となります。

## アラームの使い方

このアラームは一度セットすると、毎日アラームセット時刻にアラームが15秒間鳴ります。ただし、ダイビング系モードでは、アラームは鳴りません。鳴っているアラームは、どのボタンを押しても鳴り止みます。

「アラームセット時刻」又は「OFF」



### ＜アラーム時刻のセット＞

- (1) **M**ボタンを押してアラームモードにします。
- (2) **B**ボタンを2秒以上押すと「時」が点滅しアラーム時刻の修正状態になります。
- (3) **A**ボタンを押して「時」を修正します。(点滅箇所を修正できます)
- (4) **B**ボタンを押すと点滅箇所が「分」に切り替わります。
- (5) **A**ボタンを押して「分」を修正します。  
**A**ボタンを押し続けると早修正できます。
- (6) **B**ボタンまたは**M**ボタンを押して、通常表示に戻します。これでアラーム時刻のセットは完了です。

### <アラームのON/OFF切り替え>

アラーム通常表示で、**A**ボタンを押す毎にアラームのON/OFFが切り替わります。

- アラームON… デジタル表示にアラームセット時刻とアラームONマーク(🔔)が表示されます。
- アラームOFF… デジタル表示にOFFが表示されます。

### <アラーム音モニター>

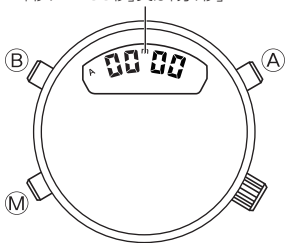
アラーム通常表示のときに**A**ボタンを押している間アラーム音の確認ができます。

- アラーム時刻修正状態(点滅表示)で約3分間放置すると自動的に修正状態が解除され、アラーム通常表示に戻ります。
- アラームモード通常表示で、約3分間放置すると、自動的に時刻・カレンダーモードに戻ります。

## クロノグラフの使い方

クロノグラフは1/100秒単位で最大99分59秒99までの計測ができます。  
100分経過後は、リセット表示(00秒00)に戻り、停止します。

「秒、1/100秒」又は「分、秒」

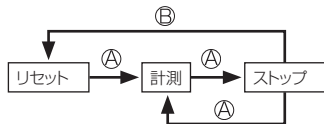


計測中の表示

- 1分未満… 「秒、1/100秒」を表示します。
- 1分以上… 計測中は「分、秒」を表示します。  
… ストップ時、及びスプリットタイム表示時は「分、秒」と「1/100秒」を1秒毎に交互に表示します。

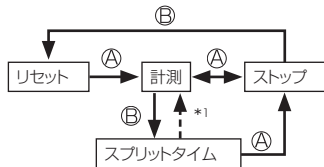
### <積算計測の方法>

- (1) ①ボタンを押す毎にスタート/ストップします。
  - (2) ストップ時に、②ボタンを押すとリセットします。
- スタート、ストップ及び、リセット操作時に確認音が鳴ります。



### <スプリットタイム計測の方法>

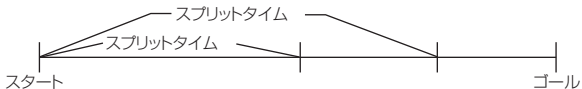
- (1) ①ボタンを押す毎にスタート/ストップします。
  - (2) 計測中に②ボタンを押すと、約10秒間スプリットタイムを表示します。  
(スプリットタイム表示中は「SP」が点滅表示します。)  
スプリットタイムは繰り返し計測表示で  
きます。
  - (3) ストップ時に、②ボタンを押すとリセットします。
- スタート、ストップ、スプリットタイム及び、リセット操作時に確認音が鳴ります。
- \*1 10秒後自動的に計測表示に戻ります。



### <クロノグラフ計測中のモード切り替え>

クロノグラフ計測中にMボタンを押してモードを切り替えても、計測は継続されていますので、再びクロノグラフモードに戻すと計測の続きを表示させることができます。ただし、ダイビング系モードの潜水モードに切り替えた場合は、クロノグラフ計測はキャンセルされ、リセット表示に戻ります。

スプリットタイム:スタートからの経過時間のこと。



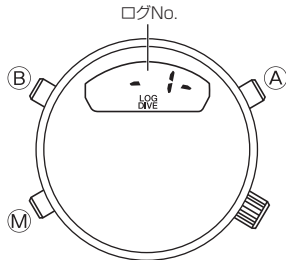
- クロノグラフモードリセット状態で、約3分間放置すると、自動的に時刻・カレンダーモードに戻ります。

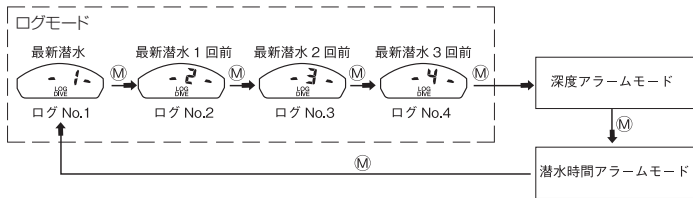
## ログモードの使い方

この時計は、潜水モードに切り替えてダイビングを行なうと、潜水回数で最新の4回分のログデータ(ログNo、潜水月日、潜水開始時刻、最大深度、潜水時間)が自動的に記録されます。このログデータをダイビング後に呼び出し表示させることができます。

### <ログNo.の切り替え>

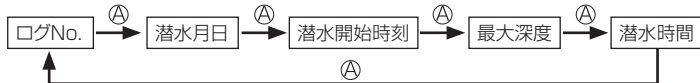
- (1) 時刻系モードの各モードで(M)ボタンを2秒以上押してログモードにします。
- (2) (M)ボタンを1回押す毎に4回分のログデータを最新のデータから順にさかのぼって表示します。
  - ログNo.4表示で更に(M)ボタンを押すと深度アラームモードに変わります。





### <ログデータの呼び出し方>

ログNo.が表示されているときにⒶボタンを押す毎に下記のログデータが順番に表示されます。



- ログデータが記録されていない場合は、ログNo.表示でⒶボタンを押すと「-----」が表示されます。
- 潜水中に異常深度警告(ERエラー表示)が働いたときの最大深度データは点滅表示します。
- 圧力センサーに異常があった場合は、ログデータ呼び出し時に「ログNo.」と「ER(エラー)」を交互表示します。
- 新たな潜水を開始すると、記憶している4回分のログデータのうち最も古いログデータが自動的に消えることとなります。必要なデータはログブックなどに記録することをおすすめします。
- ログモードで約1時間放置すると自動的に時刻系モードに戻ります。

### <ログデータの用語解説>

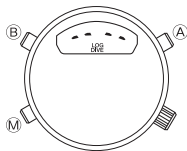
1. ログNo.: ログデータの時系列を表す数値。  
最新のログデータが「No.1」で、一番古い潜水のログNo.が「No.4」です。
2. 潜水月日: ダイビングを行なった日付(月、日)。
3. 潜水開始時刻: 水深1 m以深になった時の時刻。

4. 最大深度: そのダイビングにおいて最も深く潜ったときの深度。
5. 潜水時間: そのダイビングで水深1 m以深にいた合計時間。  
ただし、水深1 m以浅になってから10分以内に再び1 m以深に潜水すると、潜水時間はストップ時点から継続されます。
- 最大399分まで計測表示(99分59秒までは1秒単位、以降は1分単位で計測表示)  
その後は繰り返し0秒からスタートします。
- \* ダイビング中に、水深1 m未満が10分以上経過後再度1 m以深に潜水した場合は、2回の潜水と見なしログデータを2つに分けて記録します。

<ログデータの消去方法～記録されている全てのログデータを消去したい場合～>

①ボタンを押しながら②ボタンを2秒以上押しと全てのログデータ(潜水4回分のログデータ)が消去されます。このとき確認音が鳴ります。

\* データ毎に個別に消去することはできません。



## 深度アラーム/潜水時間アラームの使い方

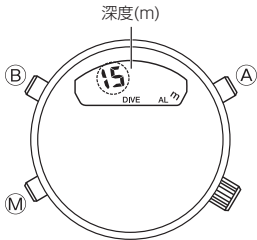
この時計のダイビング系モードには、次の2種類のアラーム機能があります。

- ① 深度アラーム機能:
- セット範囲:1 m~80 m(1 m単位)
  - ダイビング中、セットした深度に達するとアラームが15秒間鳴ります。  
アラームが1度鳴った後、セットした深度より深い所でダイビングを続けると、繰り返し1分間隔で15秒間アラームが鳴ります。  
セットした深度よりも浅い所に戻るとアラームが鳴り止みます。
- ② 潜水時間アラーム機能:
- セット範囲:5~310分(5分単位)
  - ダイビング開始後、セットした時間が経過するとアラーム音が30秒間鳴ります。  
\* このアラームの鳴りは1度だけです。

☆ 深度アラーム、潜水時間アラーム共に鳴っているアラームは、どのボタンを押しても鳴り止みます。

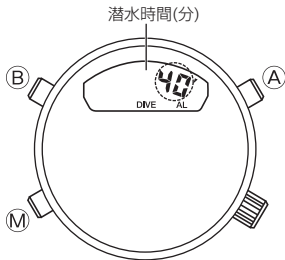
- この時計にはその他、潜水中に浮上速度が10秒間に1.5 mを越えると、浮上速度警告として10秒間アラームが鳴る浮上速度警告機能が搭載されています。
- 各種アラーム音は、周囲の状況(気泡音など)、携帯状況により聞こえにくい場合がありますのでアラームをご使用の際はご注意ください。

## 1. 深度アラームのセット方法



- (1) **M**ボタンを押して深度アラームモードにします。深度表示が点滅表示します。
  - (2) **A**ボタンを押してアラームを鳴らしたい深度を表示させます。これで深度アラームセット完了です。
    - A**ボタンを押す毎に1→2→3…79→80→--→1…と深度が+1 mずつ修正できます。
    - A**ボタンを押し続けると早修正ができます。
- 深度アラームを鳴らさない場合は、「--」を表示させます。

## 2. 潜水時間アラームのセット方法



- (1) **M**ボタンを押して潜水時間アラームモードにします。  
潜水時間表示が点滅表示します。
  - (2) **A**ボタンを押してアラームを鳴らしたい時間を表示させます。これで潜水時間アラームセット完了です。  
**A**ボタンを押す毎に5→10→…305→310→--→5…と潜水時間が+5分ずつ修正できます。  
**A**ボタンを押し続けると早修正ができます。
- \* 潜水時間アラームを鳴らさない場合は、「--」を表示させます。

### 【ダイビングアラームモニター】

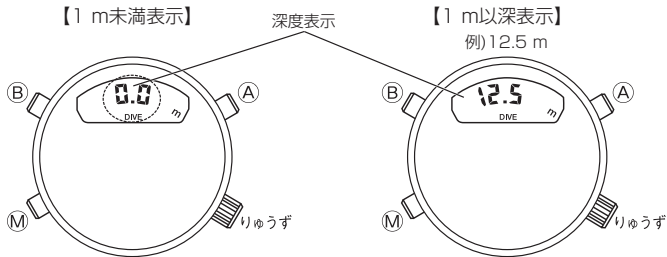
深度アラームモード、潜水時間アラームモードで、**A**ボタンを押しながら**B**ボタンを押し続けると、深度アラーム→潜水時間アラーム→浮上速度警告アラームの順に各アラームを4秒ずつ繰り返し鳴らすことができます。

## 潜水モードの使い方

ダイビング系モードの各モード(ログモード、深度アラーム、潜水時間アラームモード)で、⑥ボタンを押すと潜水モードに切り替わります。

ダイビングを行なう前に、この潜水モードに切り替えておくと、潜水中、常に水深を計測表示します。また潜水中にボタン操作で潜水時間、最大深度を確認できます。

時刻系モードからダイビング系モードに切り替えたときの周囲圧を水深計測の基準として0 mに設定します。このため、ダイビング系モードにしてから実際に潜水するまでに極端な気圧の変化があった場合は、実際の深度とは異なる表示をする場合があります。正しい水深計測を行なうためには、潜水直前にダイビング系モードに切り替えてください。



☆ 潜水中に①ボタンを押すと「潜水時間」を2～3秒間表示します。潜水時間を表示中に再度①ボタンを押すと、「最大深度」を約2～3秒間表示します。

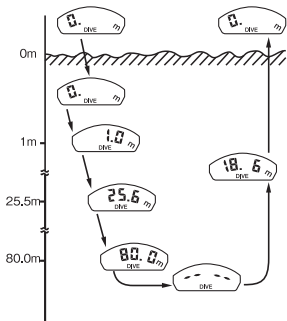
\* 潜水中には、①ボタン以外のプッシュボタンやりゅうずの操作は絶対にしないでください。防水不良などの故障の原因になります。

### <潜水モードの終了>

- 深度表示が1 m未満(0.0 m表示)のときに $\textcircled{B}$ ボタンを2秒以上押すと、ログモードに切り替わります。
- 深度表示が1 m未満(0.0 m表示)のときに $\textcircled{M}$ ボタンを2秒以上押すと、時刻系モードに切り替わります。
- 深度表示が1 m未満(0.0 m表示)で約1時間放置すると、自動的にログモードに切り替わります。

# 1. 水深計測表示について

深度



水深計測は毎秒行ない、そのときの深度を計測表示します。

水深計測単位…0.1 m

計測範囲…1.0 m～80.0 m

水深1.0 m未満のとき:0.0 m表示

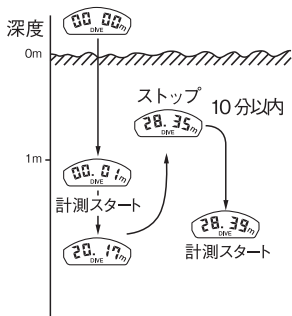
水深80.0 mを越えたとき:---表示

潜水中にER(エラー)と深度が交互表示しているときは

そのときの深度計測に異常があったことを示します。

潜水モードを終了するまでER(エラー)と深度を交互表示します。

## 2. 潜水時間計測について



水深計測が1.0 m以深になると自動的に潜水時間計測がスタートして、再び1.0 m未満を計測すると潜水時間計測がストップします。ただし、潜水時間計測がストップしてから10分以内に再び1.0 m以深になると、潜水時間はストップ時点から継続して計測表示されます。

潜水時間計測: 100分未満: 分、秒

100分以降: 分

[99分59秒まで]



[100分以降]



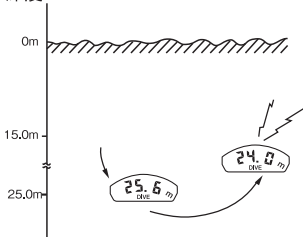
潜水時間表示範囲: 0分00秒～399分

潜水時間計測範囲: 0分00秒～400分  
(繰り返し)

# この時計の警告機能について

この時計には、次の2つの警告機能を持っています。  
安全潜水のための目安としてご使用ください。

深度



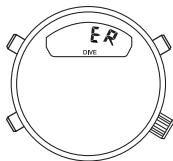
## 1. 浮上速度警告機能

潜水中に10秒間で1.5 m以上の浮上速度を越えると、浮上速度警告として10秒間アラームが鳴ります。

浮上速度警告アラームが鳴っている間は、デジタル表示に「SLW」と「現在の深度」を交互に表示します。

アラームは適正な浮上速度になるまで鳴り続けます。





## 2. 異常深度警告機能

水深計測中に1秒間で4 m以上の急激な深度変化があると、異常深度とみなし、デジタル表示に「ER(エラー)」と「現在の深度」を交互に表示します。

潜水モードを終了するまでER(エラー)と深度を交互表示します。

## このような場合には

### 【秒針が2秒間隔で動く】

電池寿命切れが近づいて、電池寿命切れ予告装置が働いています。

このような場合には早めに電池交換をしてください。

(このときも時計は正しい時刻で動いています。)

なお、この状態では以下のことができませんのでご注意ください。

1. 各種のアラームは鳴りません。
2. ダイビング系モードへの切り替えはできますが、潜水モードへの切り替えができません。
3. 「水深計測表示」でこの機能が働いた場合、ダイビングアラームが鳴りません。ただちにダイビングを中止してください。

電池交換は、お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

## 【使用中に「ER(エラー)」表示になった場合】

- 陸上での使用中やダイビング系モードに切り替えたときにER表示をしている場合。
  - 潜水終了後、長時間経過してもER表示が消えない場合。
- 以上のようなときは、圧力センサーの異常が考えられます。

このような場合は、本製品の使用を中止して、お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

## 【潜水モードから他のモードへ切り替えることができない】

短時間に気圧の変化がおきる高所環境(飛行機内など)で、潜水モードにして1 m以上の気圧変化があると、低所(地上)に下りても水深計測表示が0.0 mに戻らず、潜水モードを解除できない場合があります。

このような場合は、りゅうずを引き出すと潜水モードが解除されます。  
この操作で潜水モードを解除した場合は、ログデータは記録されません。

### 【時計が異常な表示や動作をした場合】

誤って強い衝撃や強い静電気を時計に加えてしまうと、まれに異常な表示や動作(デジタル表示が正しく表示されない、アラームが鳴り続けるなど)をすることがあります。このような場合には「オールリセット」を行なってください。

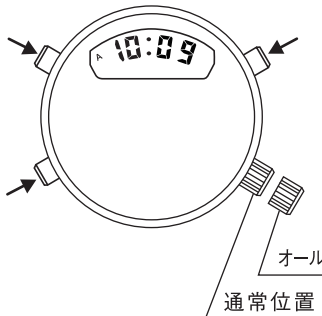
### 【電池交換をした後は】

電池交換をした後は、「オールリセット」を行なってください。この操作を行なわないと、時計が正しく動かない場合があります。

# オールリセット



オールリセット操作をすると全てのデータは消去されますので、必要なデータはあらかじめログブックなどにメモしておいて下さい。



- ① りゅうずを引き出します。
- ② 3つのボタンを同時に押して、離します。
- ③ りゅうずを通常位置に押し込みます。  
このとき、確認音が鳴ります。  
すべてのデータが消去されますので、オールリセット後は各モードを正しく合わせ直してからご使用ください。

## 電池について

### ① 電池寿命について

この時計の電池寿命は新しい電池を組み込み後約2年です。

<使用条件の目安>

時刻系アラーム:15秒/日

ダイビング回数:50回/年(1回の潜水時間:1時間)

- 深度アラーム…45秒/1回の潜水
- 潜水時間アラーム…30秒/1回の潜水

電池寿命は各種アラーム、クロノグラフなどの使用頻度、またダイビング回数や1回の潜水時間により電池寿命が短くなります。

### ② 最初の電池について

お買い上げの時計にあらかじめ組み込まれている電池は、機能や性能を見るためのモニター用電池です。

お買い上げ後、2年に満たないうちに電池寿命が切れることがありますのでご了承ください。

- ③ 電池交換について
- (1) 電池交換はすべてお買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。
  - (2) 電池交換の際は、防水検査などのチェック及び、必要に応じてパッキン類の交換も実施します。
  - (3) 電池交換により、最大深度メモをはじめ、全てのログメモが消えてしまいますので、あらかじめログブックなどに記録しておいてください。
  - (4) 電池寿命切れの電池をそのままにしておきますと、漏液などにより故障の原因となります。早めに電池交換をすることをおすすめします。
  - (5) 海外で長時間使用する際は、場所によっては旅行先でアフターサービスが受けられない場合がありますので、お出かけ前の電池交換をおすすめします。
  - (6) 電池交換及び、それに伴い生じる検査・部品交換は、保証期間内でも有料となります。

## その他の機能

### 回転ベゼル

回転ベゼルとは、時計本体のまわりについている回転リングの部分を行います。



- 経過時間を測定するとき、または残りの時間を測定するときに使います。

#### <回転ベゼルの使い方>

潜水を開始するとき回転ベゼルの左回転させて▽マークを分針に合わせます。以後、分針の示す回転ベゼル上の目盛を読めば経過時間がわかります。

例) 左図では潜水を開始(▽マーク位置)してから10分が経過したことを示します。

 **注意**

- 回転ベゼルは誤動作防止のため、反時計方向にだけ回転させることができます。無理な力で時計方向に回転させようとするとう回転ベゼルの破損になりますのでご注意ください。
- 回転ベゼルを使用するときは、セット時間に多少の余裕を持たせ、あくまでも目安としてご使用ください。

# 防水性能について

## ⚠ 警告 防水性能について

- 潜水用防水時計は、空気ポンペを使用した空気潜水(スキューバ潜水)には使用できますが、ヘリウムガスを使用する飽和潜水などには使用できません。
- この時計に使用されているパッキンは消耗品のため、長期間のご使用により劣化します。パッキンが劣化すると、防水性能を維持できなくなり、時計内部に水が入って時計の機能異常や動作停止の原因となる場合があります。2~3年毎に弊社で点検(有償)をお受けになり、必要に応じてパッキンやガラスなどの交換を行ってください。



水がかかる程度  
の使用。(洗顔、雨  
など)

名称	表示	仕様	
	文字板または裏ぶた		
潜水用防水時計	(AIR) DIVER'S 200m	200 m防水	○

## 使用例



水仕事や一般  
水泳に使用。

○



スキндаイビング、マリンスポー  
ツに使用。

○



空気ポンベ使用  
のスキューバ  
潜水に使用。

○



ヘリウムガスを  
使用する飽和  
潜水に使用。

×



濡れたままの  
りゅうずや  
ボタンの操作。

×

## お取り扱いにあたって

### **注意** 人への危害を防ぐために

- 幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
- 激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、十分ご注意ください。
- サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- 時計をしたまま就寝しないでください。思わぬけがやかぶれを引き起こす恐れがあります。

## ⚠ 注意 使用上の注意

- りゅうずは常に押し込んだ状態(通常位置)でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
- 水分のついたままりゅうず操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
- 万一、時計内部に水が入ったり、またガラスの内面にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口へ修理、点検を依頼してください。
- 時計の防水性能が高い場合でも、次のことにご注意ください。
  - 海水に浸したときは、真水で洗い乾いた布で良くふきとる。
  - 水道水を蛇口から直接時計にかけない。
  - 入浴するときは時計をはずす。
- 時計内部に海水が入った場合には、箱やビニール袋に入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品(ガラス、りゅうずなど)が外れる危険があります。

## 注意 携帯時の注意

### <バンドについて>

- 皮革バンドやウレタンバンド(ゴムバンド)は、汗や汚れにより劣化します。また皮革バンドは自然素材のため磨耗や変形、変色などの経年劣化があります。定期的に交換してください。
- 皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。(脱色、接着はがれ)また、かぶれの原因にもなります。
- 皮革バンドに揮発性薬品、漂白剤、アルコール成分が含まれる物質(化粧品など)が付着しないようにしてください。色落ち、早期劣化の原因となります。また、直射日光などの紫外線も変色や変形の原因となります。
- 皮革バンドの時計は防水時計であっても、水を使うときは時計を外すことをおすすめします。
- バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。
- ウレタンバンド(ゴムバンド)は、衣類等の染料や汚れが付着し、除去できなくなることがあります。色落ちするもの(衣類、バッグ等)と一緒に使用する場合はご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取替えください。

- 以下の場合は、速やかにバンドの調整・修理をご依頼ください。
  - 腐食により、バンドに異常が認められたとき
  - バンドのピンが飛び出しているとき
- お客様ご自身で時計のバンド(金属やゴム)の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする恐れがあります。(製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く)  
バンドの調整は、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

#### <温度について>

- 極端な高温/低温の環境下では、時計が停止したり、機能が低下する場合があります。製品仕様の作動温度範囲外でのご使用はおやめください。

#### <磁気について>

- アナログ式クォーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。  
磁気の強い健康器具(磁気ネックレス・磁気健康腹巻など)、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー一部、電磁調理器などに近づけないでください。

### <ショックについて>

- ・床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。外装・バンドなどの損傷だけでなく機能、性能に異常を生じる場合があります。

### <静電気について>

- ・クォーツ時計に使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

### <化学薬品・ガス・水銀について>

- ・化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤およびそれらを含有するもの(ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤・撥水剤など)が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には十分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

### <保護シールについて>

- ・時計のガラス部分や金属部分(裏ぶた、バンド、中留め)にシールが貼られているときは、ご使用の前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

## ⚠ 注意 時計は常に清潔に

- りゅうずを長期間動かさないままにしていると、付着しているゴミや汚れが固まり、操作できなくなる事がありますので、ときどきりゅうずを空回りさせてください。また、ゴミ、汚れを落としてください。
- ケースやバンドは、直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
- ケースやバンドは直接肌に接しています。ケースやバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗、または金属、皮革アレルギーなどにより皮膚にかゆみ・かぶれを生じる場合があります。異常を感じたらすぐに使用を中止して医師に相談してください。汗や汚れが付着した場合は、金属材質のバンドやケースは、はけなどを使い中性洗剤で汚れを除去してください。皮革材質のバンドは、乾いた布などで拭き、汚れを除去してください。
- 皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。

## 時計のお手入れ方法

- ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
- 金属バンド・プラスチックバンド・ウレタンバンド(ゴムバンド)は水で汚れを洗い落とし、金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで除去してください。
- 皮革バンドは乾いた布などで拭いて汚れを除去してください。
- 時計を長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

### 夜光付き時計の場合は

時計の文字板や針には、放射性物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。

この塗料は太陽光や室内照明(白熱灯を除く)などの光を蓄え、暗い所で発光します。

- 蓄えた光を放出させるため、時間の経過とともに少しずつ明るさ(輝度)は落ちていきます。
- 光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間や蓄光塗料の量などによって、発光する時間に差異が生じます。
- 光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

## 保証とアフターサービスについて

### <保証について>

正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

### <修理用部品の保有期間について>

当社は時計の機能を維持するための修理用部品を、通常7年間を基準に保有しております。ただし、ケース・ガラス・文字板・針・りゅうず・バンドなどの外装部品には、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

### <修理可能期間について>

当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態・環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

### <ご転居・ご贈答品の場合>

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

### <定期点検(有償)について>

#### ・防水性能について

防水時計の防水性能は経年劣化しますので、安全に永くご使用いただくために2~3年に一度防水検査を行なっていただくことをお勧めします。防水性能を維持するためには、部品の交換が必要ですので、パッキンなどの交換をご依頼ください。

#### ・分解掃除(内装修理)について

腕時計を永くご愛用いただくには分解掃除(内装修理)が必要です。歯車などの部品は永くご使用いただくことにより磨耗してしまいますが、これを抑えるために潤滑油を使用しております。しかし経年劣化により潤滑油の汚れなどで部品の磨耗が進み、故障に至ることがあります。目安として5年に一度の分解掃除のご依頼をお勧めします。

### <修理について>

時計の品質を維持するために、この時計はバンドを除く全ての修理は「メーカー修理」となります。これは、修理、点検、調整等に特殊技術、設備を必要とするためです。修理等の際は弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

### <その他お問い合わせについて>

保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

## 製品仕様

機種	C520(深度表示はメートル表示)
時間精度	平均月差±20秒(常温+5℃～+35℃携帯時)
水深計測精度	±(表示値の3%+30 cm)ただし使用温度一定の場合 *精度保証温度範囲:+10℃～+40℃ 水深計測精度は携帯温度変化の影響を受けます。
作動温度範囲	-10℃～+60℃
表示機能	1)アナログ表示:時刻:時、分、秒 2)デジタル表示:時刻:「時、分」「秒」(切替表示) カレンダー:「日、曜」(修正時のみ年、月表示) アラーム:時、分/OFF クロノグラフ:分、秒、1/100秒、スプリットタイム(100分計) ログメモ:ログNo.…1～4 潜水月日…月、日 潜水開始時刻…時、分 最大深度…1.0 m～80.0 m *1.0 m未満は0.0 m表示、80.0 m以上は- . - m表示 潜水時間…00分00秒～399分 *最新4回分のダイビング記録がメモ呼び出しできます

表示機能	<p>潜水モード:水深計測表示…1 m~80 m(0.1 m単位)          *1.0 m未満は0.0 m表示、80.0 m以上は--.-m表示          潜水時間計測…400分計(1秒単位)          *但し100分以降は1分単位で399分まで表示          ダイビングアラーム:深度アラーム…1 m~80 m(1 m単位)          潜水時間アラーム…5分~310分(5分単位)</p>
付加機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 浮上速度警告機能</li> <li>• 異常深度警告機能</li> <li>• 電池寿命切れ予告装置</li> <li>• ダイビングアラームモニター</li> </ul>
使用電池	リチウム電池 1個
電池寿命	<p>約2年(新しい電池組み込み後)          &lt;使用条件の目安&gt;          時刻系アラーム:15秒/日          ダイビング回数:50回/年(1回の潜水時間:1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 深度アラーム…45秒/1回の潜水</li> <li>• 潜水時間アラーム…30秒/1回の潜水</li> </ul>

製品仕様は、改良のため、予告なく変更することがあります。

<https://citizen.jp/>